



Club Palette Vol.54

カラーの最前線を歩く Vol.27

フォークのカラフルなスクラブで 医療現場のイメージを一新！ 患者さんに癒しや元気を届ける「色の効能」

医療現場のユニフォームのパイオニアとして、実績を持つフォーク株式会社。白衣からカラースクラブへと新しいユニフォームの世界観をつくりあげた功績は大きい。

カラーコーディネーターを目ざす人たちの間でもお馴染みのPANTONE社と共同で「PANTONEスクラブ」を開発したり、感染症対策スクラブとして、人気を博している「ジアスクラブ®」を発表するなど、医療現場のユニフォームをクリエイトする立場として常に一步先を歩んでいる。

「色の効能」に着目し、初めてスクラブにも緑や青、白以外の色を取り入れるなど、カラーという面においても大変興味深いチャレンジを続ける。フォークの商品開発における「色」の持つ意味も含め、興味深いお話を伺った。



下北 裕樹さん(写真左)
フォーク株式会社企画室 室長

永井 著太さん(写真中央)
フォーク株式会社
ダイレクトマーケティングチーム
クリエイティブディレクター

伊佐 和佳奈さん(写真右)
フォーク株式会社企画室 デザイナー

カラースクラブ誕生で 日本の医療現場のユニフォームは 劇的に変わった

—御社は明治36年(1903)創業と長い歴史をお持ちですが、ユニフォームの色やデザインは時代とともにだいぶ変わってきていますね？
Club Paletteとしては、PANTONEさんとのコラボレーションをととても新鮮に感じました。

下北 弊社では、2011年にPANTONE社との共同企画で医療従事者向けの「PANTONEスクラブ」を発表しました。これは医療現場から大きな反響



カラフルなPANTONEカラーのスクラブが並ぶカタログ。スクラブの各色にはそれぞれ「色の効能」が書かれている。

をいただきました。PANTONE社から8色のカラーを提供してもらったのですが、それが人気となり、あっという間に12色、そしていまでは27色ものカラフルな展開になっています。

このカラースクラブ発売を機に、弊社では、カラーで癒しを与える効果はないものかと考え、「色の効能」にも初めて着手しました。レンガ色は「力強い」「健全な」「集中的な」、クラシックブルーは「信頼できる」「安心」「信用」、サックスなら「斬新さ」「楽しいな」「熱帯の」といったように、各色のスクラブに色のもつ効能をつけてご紹介したのです。ちょうどユニフォームが患者さんに与える影響や、第三者と呼ばれる患者さんのご家族にどのような印象を与えるかが注目された時期でしたので、話題となりました。

—以前は病院に行くと、このようなカラフルなスクラブを着た人はいませんでしたね。たいがいは白衣か、薄いブルーやピンクのユニフォームを着た人ばかりでした。このプロジェクトはさぞかし革新的であったかと？

下北 メンソレータムの可愛いキャラクターを覚えていらっしゃるでしょうか。そもそも、日本では、戦時中や戦後間もないころ、ナースの服装は黒や紺などのワンピースが主流でした。当時は、治療中に血や土がついてしまったり、ユニフォームが汚れる場面が多かったため、できるだけ汚れが目立たない色が好まれていました。その後、汚れ防止に割烹着を上に着るようになり、それが白衣の前身になったと言われています。

以後、白衣が主流となり、ナースの方で言えば、ナースキャップを被りピンクか薄いブルーのワンピースにナースサンダルを履いて、上からカーディガンを羽織った姿が、ドレスコードでした。ところが、国内外の医療ドラマなどでスクラブを着た人物が颯爽と登場したのが話題となり、ブレイクするきっかけとなりました。

スクラブはそれまでは、お医者さんがオペのときに着るものだったのですが、ナースの皆さんがドラマを観て、「私たちもああいう服を着てみたい」「どこかで売っていないの？」と言い出した。当時たまたま弊社がスクラブ（PANTONEスクラブ）を扱い始めていたタイミングとうまく重なったのです。おかげさまでカラースクラブは、医療現場では今やスタンダードになりつつあります。白いスクラブも作ってはいるのですが、カラーのほうが人気です。

永井 特にネイビー系や薄いピンク、サックスとかが人気ですね。

下北 また、歯科医院でもカラースクラブは人気があり、歯科医の先生方が飛びついてくださいました。総合病院などでは日勤と夜勤が重なっているときに、差別化するうえで違う色を着たりしています。

永井 役職ごとに色を分けることで、患者さんを病院内でご案内するときにも役立っています。「あのピンクの方に声をかけてください」「次に青色の方のところに行ってください」と。また、長期入院をされていて食欲がなかなか湧かない患者さんにとっては、寒色のユニフォームを着た人が食事をすすめるよりも、暖かい色を着た人がすすめたほうが、美味しそうに見えたりする。そういった話も聞きますね。



PANTONE®



PANTONE®



PANTONE®

PANTONEスクラブ人気のカラー

下北 色というものは、思った以上に肝心なところでお客様にフィットするのだなと実感しています。患者さんと相對するとき、どういふ色が有効か、第三者であるご家族が見たときに、よい印象を与えるのはどんな色かを、弊社では調査も行い検証して、商品開発に役立てています。

コロナ禍での感染症予防対策に フィットした 革新的素材「ジアスクラブ®」

—コロナ禍で注目すべき御社の動きがあるとお聞きました。

伊佐 はい。新型コロナウイルスに対応する「ジアスクラブ®」という商品が、昨年の春にできました。「感染症対策スクラブ」としてアピールさせていただいています。反響はとても大きいです。

新型コロナウイルス感染症予防に有効なのは、徹底した手洗いと消毒だと言われていますが、その消毒に際して、厚生労働省が感染症対策として推奨しているのは、①熱湯による消毒(80度以上の熱湯に10分以上浸すこと)と②塩素剤による消毒(次亜塩素酸ナトリウムなどを使用し、その遊離塩素濃度0.05%~0.1%以上の水溶液の中に30分以上浸すこと)の2つの方法です。規模の大きな病院ですと大きな洗濯機があったり、リネン屋(洗濯屋)さんが入っていますので、①に対応できますが、街中にある小さなクリニックとか歯科医院さんですと、大きな洗濯機もなく、リネン屋さんも入っていないので、②の塩素系漂白剤に浸す方法を取らざるを得ません。白でしたら問題ないのですが、通常のカラースクラブを使っていたと色抜けが心配ですので、しっかりした感染症対策をしていただけるように、塩素系漂白剤に長いこと浸しても色落ちのしないジアポプリンという素材を使ったスクラブを弊社で開発いたしました。

—色落ちしない素材とは具体的にどのようなものでしょうか？

伊佐 実は糸自体に色落ちしないものを使っています。プラスチックをドロドロに溶かして、そこに顔料を入れて糸を染めてしまうやり方で、その糸を使って織っています。

永井 生地に染織するのではなく、繊維そのものに色が入っていますから次亜塩素酸ナトリウムに優れた堅牢性を持っています。私たちが生地を依頼している会社との共同開発で生まれたもので、メディカル環境においては、弊社しかこの素材を扱えないようになっています。



塩素系漂白剤を使った実験
左:通常のカラースクラブ
右:「ジアスクラブ®」
通常のカラースクラブでは色抜けが見られるが、「ジアスクラブ®」は色落ちしていない。



—漂白剤に長いこと浸けていても、色落ちしないってすごいですね。

伊佐 病院用ハイターと呼ばれる漂白剤の原液(本来は希釈して使用)をたらして、一カ月以上経っても色落ちしていない写真が、カタログにサンプルとして載っていますが、実は見本に使ったものは、今でも手元にあって色落ちしていません。本来ですと1/100近くに希釈するものですが、原液でも耐えます。

—ジアポプリンという生地は、漂白剤をはじくんですか？
それとも吸い込んでも変わらないのですか？

伊佐 吸い込んで変わらないんです。ですから汗もしっかり吸い取ります。
下北 従来は糸に染色剤を浸み込ませて色をつけていたのですが、色を抜くことも可能で、塩素系漂白剤に浸けこむと、中和してしまっただ変色を起こしていました。ところが、今回のジアポプリンの場合は、糸それ自体に顔料を融着させ着色していますので、相当高い温度まで上げないと顔料自体を摘出することは難しいのです。

それからもう一ついいことがあって、この生地をつくるプロセスは地球にやさしい。サステナブルであるということです。通常生地の色を染めるときは、染める前や後に水をたくさん使います。石油をいっぱい使ってお湯を沸かして、それを維持するためにタービンを回して電気もいっぱい使います。いっぱいエネルギーが必要なんです。ところがこの生地は最初から糸に色が着色されていますから、よけいな資源を使わなくて済みます。

—顔料の色を出すご苦労はありましたか。

下北 実はそこも難しいところ。糸の段階では色がいいと思っても、いざ織りあげてみると見た目の色が変化したり、濃淡が微妙についたりして、思った色にならないこともありました。

伊佐 フォーク独自の色を出すためには試行錯誤がありました。着色する顔料は、色を混ぜることができません。どうしても使える色が限られてきます。「ジアスクラブ®」で出しているダークネイビーという色ですが、ネイビーと黒の中間のような色をイメージしていたのですが、合う顔料がなくて、この素材は経糸にネイビー、緯糸に黒を使うことで、黒でもないネイビーでもない微妙な色合いを表現しています。

バーガンディという色も、土っぽい色や血液っぽい色はあるのですが、求めるワインのきれいな色のイメージの顔料がなく、綿の状態です工夫を施すなどして、色合いを出しています。



「ジアスクラブ®」ダークネイビー(上)
「ジアスクラブ®」バーガンディ(下)
感染症と闘うスクラブとして撮影された
カタログ用写真

ユーザーに合わせた多様なスクラブ さらに医療職以外の ユニフォームの展開も視野に

—ワコールさんともコラボしていらっしゃいますね。
フェミニンな色合いや、綺麗なシルエットが素敵ですね。
女性に好評なのは？

伊佐 ワコールさんとの商品は、素材の開発と色のつけ方が独特なものが多いです。最初は女性が綺麗に見えるワコールピンクと言われる色からスタートして、女性たちのさまざまな声にお応えして、バリエーションのあるカラーラインナップが次々と誕生しています。

今年は特に、ワコールのフラワーマークであるピンクの世界観を大事にしています。素材も独特で、女性の方が心地よいと感じていただけるように、少しふくらみがあり、ふっくらとした手触りのよい質感が特徴で、この素材が好きと愛用される女性も多くいらっしゃいます。カラーバリエーションは、ほかにはない独特なペールトーンからパステルトーンまで、綺麗な色をつけるということを第一に考え、ワコールさんの世界観を展開しています。

下北 ちょっとニュアンスのあるカラーと言いますか。それぞれに花の名前が付いているんです。ランジアパープル、ビオニー、リリスピンク、ラナンキュラス等々…

伊佐 しっかりメリハリがついたボディラインですので、「デキる看護師」みたいだと、口コミで評判が広がっていきました。実際のところ女性の口コミの力ってすごいです。

下北 裏地も思い切って花柄を入れたり、遊び心を取り入れ、それがいい結果につながりました。

伊佐 この裏地が気に入って買ったのよ、と言ってくれる方もいらっしゃいます。表地とのコーディネートが気に入ったと言ってくれる方も増えてきました。

—ちなみに会社のエントランスのところにグッドデザイン賞を
受賞されたと紹介されていましたが、あれはどのスクラブですか？

永井 あれは「ジップスクラブ®」のシリーズで、2014年のことです。それまでほとんどが被りのスクラブだったのですが、前横ファスナータイプを作りました。着脱が楽で、汚れがついて脱ぐときにも、身体や顔に付着しないようになっています。スクラブにおける日本独自の進化形ですね。さらに色の展開や医療従事者へのアプローチのしかたも評価していただきました。

下北 「ジップスクラブ®」誕生のきっかけは、とある病院の看護部長さんから聞いた話がヒントになっています。大きな病院で朝、たくさんのナースが出勤してきて、ロッカールームからなかなか出てこない。着替えるときに被るスクラブだとお化粧がぐずれたり、髪の毛が乱れたりして、またやり直したりしていると。なかなかナースが職場に出てこないから何とかならないかしら？と。じゃあ、思い切って被るのをやめて、羽織るようにしたらどうだろうという発想でした。それがヒットしたのです。



ワコールとのコラボスクラブ



着脱が楽な「ジップスクラブ®」

—最近スクラブで新しい動きは何ですか？

下北 これは現在永井が担当しているのですが、スクラブのカスタマイズが流行っています。

永井 医療現場のチーム感を醸成するために、刺繍をそろえて入れてみたりするのがトレンドですね。病院の名前を入れて、スタッフの名前を入れたり。動物病院さんだと、院長の似顔絵のマークを入れたりとか…。面白かったのは、東京大学の医学部の文化祭でスクラブを着たいと言われて、大学のマークを入れて納めました。ふつう文化祭はみんなTシャツとかお揃いで作るのですが、医学部なのでスクラブをお揃いで着るという企画でした。ドクターの卵「らしく」見えるということで、スクラブを着ていただきました。

伊佐 いままでは師長さんとかの場合、見て区別がつくようにラインなど入れていたのですが、最近では、患者さんから見える胸から上の位置に星のマークを入れてほしいというところもあり、病院によっていろいろです。このように刺繍を入れてカスタマイズするのも日本流に進化したスクラブのひとつですね。

下北 さらに弊社としては、これからは病院内だけではなく、在宅への診療に着るユニフォーム、そしてカラーが重要なキーになってくると考えています。訪問診療の患者さんにとって、ドクターやナースが白衣よりカラースクラブで訪問したほうが、親しみを覚え、安心して治療を受けられる効果があると思います。

カラーだけでなくデザインも含めて、トータルに市場として考えていければよいと、リサーチ中です。

また、スクラブ以外にも病院のメディカルクラークの方たちにもユニフォームが必要で、もっとカテゴリーを広げて、色も含めいろいろなお提案をしていければよいと思っていますところ。医療現場や患者さん、そのご家族をもっと元気にできるご提案ができればうれしいですね。



胸元に刺繍を施したカラースクラブ